

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成23年10月28日(金)5校時
児童 2年1組 男15名 女15名 計30名
指導者 岩城千鶴(北松園小学校)

「読むこと」の指導事項

- ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

<この単元で身に付けたい力>

- ・ 場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読をする力
- ・ お話を読んで自分の経験と結び付けて、感想を発表する力
- ・ 経験したことから書くことを決め、もらった人がうれしくなるような手紙を書く力

1 単元名 音読劇をしよう
教材名 お手紙

2 児童と単元について

(1) 単元について

本単元は、「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること」(読むこと ア)「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」(読むこと ウ)「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」(読むこと オ)に基づき、「場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすること」を主なねらいとする。

本単元は、文学的文章の「お手紙」と「本は友だち」「受け取った人がうれしくなるような手紙を書く活動」で構成されている。音読劇をするという目的に向かって、人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み進める学習と、関連した本を読んだり伝えたいことを手紙に書いたりする活動により、読むことや書くことの能力や態度を養うことをねらいとしている。

本教材「お手紙」は、アーノルド・ノーベル著、三木卓訳の「ふたりはともだち」に収められている一編で、がまくんとかえるくんの二人が主人公の物語である。ちょっぴりわがままで自分勝手ながまくんと、友達思いで一生懸命優しい言葉をかけるかえるくんの温かい友情が主題となっている。会話文が豊富なため、児童は「がまくん」や「かえるくん」に寄り添って、ともに喜んだり悲しんだりしながら、想像を広げることのできる教材である。また、時間や場所の推移に応じて場面が構成されているため、登場人物の心情や行動の変化がとらえやすい作品となっている。挿絵は作者自身が描いたものであり、その一枚一枚にがまくんやかえるくんの心情が如実に表れており、登場人物の心の動きを読み取ったり比べたりするのに、効果的に活用できる構成となっている。このように本教材は、二人の心情と心の通い合いを読み取り、音読劇をするという学習に適した教材であると考えられる。

(2) 児童について

児童は、これまでに「ふきのとう」で、場面の様子について、人物の様子や会話を中心に想像を広げながら読む学習に取り組んできた。物語の展開に沿って、登場する人物に扮して動作をしたり、音読の工夫をしたりして、物語の世界を想像し、内容を理解していく学習に意欲的に取り組んだ。また物語の中で好きだと思うところをわけ・理由を表す「～からです。」という文末表現を使って書き、読み合う学習も行った。さらに「スイミー」では主人公スイミーの行動や会話に着目して内容を読み取り、主人公の行動に対して自分の思いや考えをまとめるという活動に取り組んだ。また、「大事な言葉や文」に線を引いたり、ノートに書き出したりする経験も積んできている。

これらの学習を通して、登場人物の行動を中心に場面の様子を読むとする態度が育ってきている。中には、他の場面と結び付けて考えたり、根拠になる叙述を明らかにして考えたりする児童もでてきた。しかし、文章の内容の大体はとらえられるようになってきているものの、挿絵を見て何となく想像したり、部分的な読みに終始したりする児童が少なくなく、場面について想像を広げながら読んだり、根拠を明らかにして読んだりする力が十分に身に付いているとはいえない。

音読については、授業で「一文読み」や「一斉読み」「交互読み」等を繰り返して行っている。ほとんどの児童は意欲的に取り組み、学習が進むにつれ、はっきり発音したり、語や文のまとまりを意識したりしながら音読できるようになる。しかし、相手に声が届く音量や、音量が明確に聞こえる速さを考えて音読することにおいて十分とはいえず、場面の様子や登場人物の気持ちを読み方に反映させようとする児童はまだ少ない。

これらのことから、本単元において、根拠を明らかにして場面の様子を読む力や読み取ったことをもとに音読する力を伸ばす手立てが必要であると考えられる。

(3) 指導にあたって

本単元は、1学年の「くじらぐも」での「場面の様子を想像を広げながら読み、様子が表れるように音読するという学習」を受けて「人物の行動や会話に注意して、声の出し方を工夫すること」をねらいとしている。

また、この学習は3学年の「きつつきの商売」での「様子が分かるように音読する」という学習へとつながっていく。このような系統性をふまえた上で、声に出して表現する活動が作品の読み取りを深めることにつながるよう指導しながら、読む力を確かなものとしていきたい。

指導にあたっては、場面の様子を読み取り、人物の気持ちを想像するために、主人公がえるくんとがまくんの会話文の音読の仕方を考えたり、二人の行動や会話に着目して内容を読み取ったりする活動を繰り返し行っていく。子ども一人ひとりの感性を大切にしつつ、確かな読みの力を育てる学習を展開するために、次のような手立てを工夫する。

音読によって、理解を確かめたり深めたりさせる。

- ・会話文の「音読の仕方」を考えさせることを通して、場面の登場人物の気持ちを想像させる。
- ・役割読み等の形態の工夫をすることを通して、登場人物の気持ちや場面の様子を想像させる。
- ・「音読の仕方」を考えさせる時には、なぜそのように読みたいか、どの叙述からそう考えるかなどの根拠をはっきりさせる。

根拠をもった読み方を身に付けさせる。

- ・誰の会話文かを区別して読めるように印をつけたり、主語と述語の関係をはっきりとさせたりすることにより、登場人物の行動や気持ちを正確にとらえさせる。

物語の世界に浸らせ、読む楽しさを味わわせる。

- ・本教材文の特徴である「会話文の多さ」を生かして、登場人物になって役割読みをさせることにより、内容の理解を図るとともに、登場人物のやり取りの楽しさを味わわせる。

3 単元の目標

- (1) 物語の特徴を生かして、音読劇に表そうとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- (2) 人物の様子や気持ちが表れるように音読することができる。 【読むこと ア】
- (3) 時、場所、人物、出来事や、場面ごとの人物の様子を読み取り、人物の気持ちを想像することができる。 【読むこと ウ】
- (4) 友達と感想が同じだったり、違ったりしていることに気づいて感想を深めることができる。 【読むこと オ】
- (5) 誰に何を書こうかと考え、手紙にふさわしい形式で書くことができる。 【書くこと ア・イ】
- (6) 主語と述語の関係を理解することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(カ)】

4 学習指導計画及び評価規準(12時間)

過程	学習内容と主な学習活動	評価規準<評価方法>			言語活動を通して考える力を育成する活動
		国語への関心・意欲・態度	読む能力 書く能力	言語についての知識・理解・技能	
第一次 2時間	学習の見通しをもつ。 ・単元名とリード文を読む。 ・範読を聞き、おもしろいと思ったところを発表し合う。 ・漢字や語句の学習をする。 ・誰の会話文であるかを確かめながら、全文を読む。 ・文章構成を確かめる。 2時間	・全文を読み、心に残るところを見つけ、話し合おうとしている。 <発言・態度>	・進め方を理解し、学習の見通しをもっている。 ・作品を読んであらずしを理解し、感想を書いている。 ・誰の会話文であるかを指摘している。 <発言・ノート・教科書への書きこみ>	・漢字や語句について理解している。	・感想を書いたり、発表したりする活動
第二次	一場面を読み、手紙をもらえないがまくんの様子を読み取り、音読する。 ・会話文に着目させ、がまくんの様子を読み取る。 ・がまくんの気持ちを想像しながら、役割に分かれて音読する。 1時間	・会話文に着目して読み、手紙をもらえないがまくんの気持ちを想像しようとしている。 ・がまくんの気持ちや様子が表れるように音読しようとしている。 <発言・ノート・音読>	・手紙をもらえず悲しい気持ちのがまくんの様子を、会話文に着目して読み取っている。 ・読み取ったことをもとに音読している。 <発言・ノート・音読>	・人物の行動描写や会話文の語句を理解している。 <発言・ノート>	・想像を広げながら読む活動 ・様子が表れるように音読する活動

第二次	<p>二場面を読み、かえるくんの行動を順序よく読み取る。</p> <p>・「がまくんの家へもどる」までの言動に着目させ、かえるくんの行動を順序に沿って整理する。</p> <p>1時間</p>	<p>・がまくんの家へもどるまでのかえるくんの行動を読み取ろうとしている。</p> <p><発言・ノート></p>	<p>・がまくんを喜ばせようとするかえるくんの行動を読み取っている。</p> <p><発言・ノート></p>	<p>・人物の行動描写や会話文の語句を理解している。</p> <p><発言・ノート></p>	<p>・想像を広げながら読む活動</p> <p>・様子が表れるように音読する活動</p>
	<p>三場面を読み、手紙を待つ二人の様子を読み取り、音読する。</p> <p>・二人の会話文を対比させ、それぞれの気持ちを想像する。</p> <p>・二人の気持ちが表れるように役割に分かれて音読する。</p> <p>2時間(本時1/2)</p>	<p>・言動を比べながら、二人の様子を読み取ろうとしている。</p> <p>・二人の気持ちや様子が表れるように音読しようとしている。</p> <p><発言・ノート・音読></p>	<p>・手紙を待つ二人の様子を読み取っている。</p> <p>・読み取ったことをもとに音読している。</p> <p><発言・ノート></p>	<p>・人物の行動描写や会話文の語句を理解している。</p> <p><発言・ノート></p>	<p>・想像を広げながら読む活動</p> <p>・様子が表れるように音読する活動</p>
	<p>音読劇の練習をする。</p> <p>・音読したい部分を書き写し、読み方や動きについて書き込む。</p> <p>・グループで音読劇の練習をして、読み方の工夫や動きについて意見を伝え合う。</p> <p>2時間</p>	<p>・読み方の工夫や動きについて考え、音読劇の練習をしようとしている。</p> <p><ノート・音読></p>	<p>・読み方の工夫や動きについて考え、音読劇の練習をしている。</p> <p><ノート・音読></p>		<p>・読み方や動きを工夫して音読する活動</p>
7時間	<p>音読劇を発表する。</p> <p>・音読劇の発表を行い、工夫したところを発表し合う。</p> <p>1時間</p>	<p>・場面の様子が表れるように音読劇の発表をしようとしている。</p> <p><発表></p>	<p>・場面の様子が表れるように音読劇の発表をしている。</p> <p><発表></p>		<p>・音読劇の発表をする活動</p>
第三次	<p>学習を振り返り、「お手紙」のおもしろいところを話し合う。</p> <p>1時間</p>	<p>・物語のおもしろさをわけを入れて話そうとしている。</p> <p><発言・ノート></p>	<p>・物語のおもしろさをわけを入れて話している。</p> <p><発言・ノート></p>		<p>・物語のおもしろさを話し合う活動</p>
	<p>「がまくんとかえるくん」シリーズの他のお話を読む。</p> <p>1時間</p>	<p>・自分から進んで作品を選び、読もうとしている。</p> <p><態度></p>			
	<p>受け取った人がうれしい気持ちになる手紙を書く。</p> <p>・手紙を書き、読み合って、感想を伝え合う。</p> <p>1時間</p>	<p>・受け取った人がうれしい気持ちになる手紙を書こうとしている。</p> <p><態度></p>	<p>・だれに、どんな内容で書くかを考えて手紙を書いている。</p> <p><ノート></p>	<p>・主語と述語に注意しながら文を書いている。</p> <p><ノート></p>	<p>・伝えたいことを手紙に書く活動</p>

5 本時の指導

(1) ねらい

<国語への関心・意欲・態度>

二人の気持ちを想像しながら音読しようとする。

<読む能力>

がまくんに優しくするかえるくんと苛立つがまくんの様子を読み取り、二人の気持ちを想像しながら、音読することができる。

<言語についての知識・理解・技能>

誰が、どうしたかをとらえて読むことができる。

(2) 具体の評価規準

観点別評価目標	A(十分満足できる)	B(概ね満足できる)	C(支援の手立て)
がまくんに優しく するかえるくと苛 立つがまくんの様子 を読み取ることがで きる。	二人の会話を比較しながら、 徐々に苛立ち、すねていくがま くんの気持ちの変化と何とかが まくんを納得させようとするか えるくんの気持ちの高まりを読 み取っている。	会話文に着目して、 がまくんを喜ばせた いかえるくと、あ きらめてすねている がまくんの様子を読 み取っている。	板書を手がかり に、かえるくと がまくんの様子を 確かめさせる。
二人の気持ちを想 像しながら、音読す ることができる。	読み取ったそれぞれの人物の 心情の変化をもとに、適切な声 の大きさ、速さで音読している。	人物の心情に合わ せて適切な声の大き さ、速さで音読して いる。	人物の心情を確 かめさせ、適切な 声の大きさ、速さ を考えさせる。

(3) 「考える力」の育成のための手立て

【考える力の育成にかかわる身に付けさせたい力】

- ・場面の様子について、かえるくとがまくんの言動を中心に想像を広げながら読む力
- ・かえるくとがまくんの気持ちが表れるように音読する力

【考える力を育成するための言語活動】

- ・かえるくとがまくんの会話文の音読の仕方を考え、交流する活動

(4) 展 開

過程	学習内容と学習活動 (発問 指示)	時間	指導上の留意点・評価 (・留意点 評価)
導 入	1 前時の学習内容を想起する。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・がまくんへのお手紙をかたつむりくんに託すかえるくんについて振り返り、本時の課題につなげる。 ・二人の会話を中心に読むという読みの視点を確かめ、課題解決の見通しをもたせる。
	2 学習課題を把握する。 かえるくんががまくんの家にもどっ てからの、ふたりの気持ちができるよ うに音読しましょう。	3	
展 開	3 学習課題を解決する。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵をもとに、玄関で座っていたがまくんがすねてベッドで寝ていることを確かめ、その気持ちを想像させる。 ・前時までの学習をもとに、がまくんに元気になってもらいたいかえるくんの心情を確かめる。 ・地の文は教師が読み、がまくんとかえるくんに分かれて音読する。
	(1) かえるくんががまくんの家に戻った時の、二人の気持ちを想像する。		
	(2) 学習場面の会話文を読んでだれが言ったことかを確認、読みの見通しをもつ。 ・音読(役割読み)		
	(3) 会話文から、二人の気持ちの変化を考える。 会話文から、がまくんのどんな気持ちが分かるでしょう。 ・あきらめ ・いら立ち ・怒り	8	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の会話を比較し、かえるくんの優しい気持ちとがまくんの苛立ちをとらえさせる。 ・「お手紙がくるのをまってみたら～」というかえるくんに対して、「いやだよ。～あきあきしたよ。」と答えているがまくんの言葉から、お手紙を待つことをあきらめたことを確かめる。 ・「あきあきしたよ。」とあきらめているがまくんが、かえるくんの言葉で「そんなこと、あるものかい。」と投げやりになっていることをとらえさせる。 ・「そんなこと、あるものかい。」「ばからしいこと、言うなよ。」という言葉の変化から、徐々に苛立っていくがまくんの心情に迫る。 ・「ばからしいこと、言うなよ。」から苛立つがまくんについてとらえさせる。

展 開	<p>会話文から，かえるくんのどんな気持ちかわかるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんを元気づけたい 		<ul style="list-style-type: none"> ・「～くれなかったんだぜ。」「～同じだろうよ。」という語尾に目を向けさせ，苛立ちが増していることをとらえさせる。 ・二度も外をのぞくかえるくんの心情の変化を，「見ました」と「のぞきました」という言葉の変化から想像させる。 ・「がまくん。」と語りかけ，がまくんの気持ちを引きたてようとしているかえるくんの優しい気持ちに気づかせる。 ・「でもね～」から，すねているがまくんの気持ちを何とか引きたてようとするかえるくんの様子をとらえさせる。 ・「ひょっとして，～」と「きょうは，～」，「しれないだろう。」と「しれないよ。」の言葉の違いに着目させ，かえるくんの，がまくんに早くお手紙を届けてあげたいという気持ちの高まりに迫る。
	<p>(4) 高まったかえるくんの気持ちがわかるような音読の仕方について考える。</p> <p>「でもね，がまくん。」「きょうは，～かもしれないよ。」は，どのように音読したらよいでしょう。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったかえるくんの気持ちをもとに音読の仕方を考えさせる。 ・「でもね」と優しく語りかけるかえるくんの気持ちを想像させる。 ・やさしく，ゆっくりとなど具体的な様子を考えさせる。
	<p>(5) がまくんの会話文を視写し，音読の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ばからしいこと，言うなよ。」 ・「今まで，だれも，お手紙～」を視写し，音読の仕方を書き込む。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったがまくんの気持ちをもとに音読の仕方を考えさせる。 <p>読み取ったがまくんの気持ちをもとに，音読の仕方を書き込むことができたか。</p>
	<p>(6) 考えたことをもとに，音読の仕方を交流する。</p> <p>「ばからしいこと，～。」「今まで，～同じだろうよ。」は，どのように音読したらよいでしょう。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「ばからしいこと」の意味と読み方について考えさせる。 ・「～思えないよ。」との言い方の違いを考えさせ，徐々に苛立ち，すねていくがまくんの気持ちに迫る。 ・おこったように，強くなど具体的な様子を考えさせる。
	<p>(7) 二人の気持ちを想像しながら音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き込んだことをもとに，音読の練習をする。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・始めは，書き込んだことをもとにがまくんの会話文の音読練習をする。 ・次に，ペアでがまくん役とかえるくん役になり，音読の練習をする。 <p>書き込んだ音読の仕方をもとに，かえるくんとがまくんの気持ちを想像しながら音読することができたか。</p>
終末	<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>音読の発表をしましょう。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の気持ちが表現できている児童に発表させ，かえるくんとがまくんの様子確かめ合う。
	<p>5 次時の学習内容を確認する。</p>	1	

6 板書計画

お手紙

アーノルド・ローベル

かえるくんががまくんの家にもどってからの、
ふたりの気もちがわかるように音読しましょう。

挿絵
ヘッドに描いてし
るがまくん

がまくんは、ヘッドでお筆おをしてみました。

いやだよ。
ほくもつゝあまあきしたよ。

挿絵
窓から見る
かえるく
ん

かえるくんは、まだからゆつひなをうけを見ました。

でもね、がまくん。
ひよつとして、くかもしれな
いだらつ。

がまくんがよろこぶのを見た
かなしい気もちをなくてあげたい

そんなこと、あるもの
かい。
ゝいるとは思えないよ。
お手紙なんてくるわけがない

かえるくんは、まごからのぞきました。

おおつたあつた
大きく

でもね、がまくん。
きょうは、くくれるかもし
れないよ。

ばからしにん、言うな
よ。
今まで、くきょうだつて
同じだつたよ。

くはなごの
ん

きみ、おきてな、くまつて
みたらいいと強うよ。

あ
ち
さ
く
ゆ
つ
く
り